

あらかじめわかっていた事

わたしは眠っていたのかもしれない。

気がつくところとは真暗で

遙か高いところにまあるい月があるだけです。

なんだかいつもより月が青いような

いつもの月とは違うような気がします。

満月にしては辺りが暗すぎます。

暗すぎてどれだけ広いのかもわかりません。

本当の闇です。

こほんと咳をしたところ

音が響くように聴こえたので

どうやらわたしは

深い穴の底にいるようなのでした。

あーと声を出してみると

やっぱり声は響きます。

それでは月と見たものは月などではなく

穴の口の部分だったのです。

そう思って見れば

やはり月ではありません。

誰かが通り過ぎてゆくのか

ときおり影が横切ります。

わたしはその場に座りこみ

助けを求めるわけでもなく

ポケットの中にあつた煙草に火を付けます。

カチンとライターの開まる音が穴の中に響き

わたしは穴の口を見上げ続けます。

わたしがどこに迷い込んだのか

自分でわかつているような気がします。